

# 禁光

752号

2024年1・2月  
日本基督教団  
田園調布教会  
伝道部発行

〒145-0071  
東京都大田区田園調布  
3-34-18  
電話 03-3721-2811  
FAX 03-3721-2814  
<https://den-church.jp/>

## 恵みのあとさき

イザヤ書 五章一〜七節  
マタイによる福音書 二〇章一〜一六節

牧師 高橋和人

主イエスは直前の箇所の一〇九章三〇節「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」と言われ、今日の箇所の一六節でも「このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」と言われています。

これは主イエスの持つておられるものさしということができます。ものさしは、基本的に日常的な道具です。長さを測り、重さを量り、量を量り、あらゆるところにものさしがあふれています。何かをはかるにはそれに合うものさしが必要です。

「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」というものさしを主イエスは明瞭なたとえで語られました。

ある家の主人が夜明けにぶどう園で働く労働者を雇うために出かけます。夜明けですから六時くらいです。ぶどうは手のかかる作物です。イザヤ書にその作業の一部が載せられ

ています。土壌づくり、苗づくり、そればかりでなく、見張り小屋、人や動物から守るための柵や石垣、見張りの塔、酒船造り、剪定などの直接の世話があり、収穫の時でなくとも、その時その時で手入れや作業が必要です。人々にとっては身近で基本的な日常的な働き口でした。

さて、ぶどう園の主人は夜明けに出かけて行き広場で声をかけていきます。一デナリオンは一日の賃金として定められた金額でした。一日一デナリオンの賃金、それで労働者を雇いました。さらにこの主人は、九時、一二時、三時と出かけて行って、次々に仕事のない者を雇います。五時にもそうします。五時というのはもう作業があらかた終わって、片付けに入るような時間です。新たな働き手が必要な時間ではありません。そして夕方六時には一日の終わります。労働もそこで終わりました。

主人は監督に最後に来た者たちから一デナリオンの支払わせていきます。普通であれば、早い時間に雇ったものから始めることでしょう。ところがここで後のものが先になっています。その理由はここでははっきりしません。主人が四回も人を集めたのですから、人数もいたことでしょう。最後が一番早くに雇われた人たちが来ます。彼らは待たされている間、気前のいい様子を見て、もっと多くもらえるだろうと思っていました。早くから長時間働いていたからです。

しかし、彼らが得られたものも一デナリオンの支払でした。それで、彼らは訴えます。「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとはいけません。とがっかりした様子さえ目に浮かびます。彼らは不平を言い出し、つぶやきます。自分を雇った主人に不公平を主張します。働きに応じた報酬こそ正当だという主張です。

労働時間、その働きの成果や結果、また業績、能力に見合った者が評価され、それにふさわしい対価こそ求められる。それは、今でも変わらない方法です。その人が何をしたら、何をもたらしたかが大事にされるのです。これは、人のものさしの目盛りだということです。これは、人が人を見るためのものです。今は、データの時代ですから、それは正確に測られ、数値化され、評価されます。

この目盛りは、大きさをはかることには有効です。しかし、大きさをはかることができますが、小ささをはかることはできません。ここに見えるのは人の一面でしかないのです。